

F2 5m。この滝の上からもビニールホースで取水している。樹を使って右岸を降り、左岸にトラバースして下る。すぐに F1 30m。ザイルを2本用意してきていたから、アップザイルンにても降りられたが、ザイルを出すのも面倒なので左岸を捲く(空中懸垂になったようだ)。水が少ない(この沢にはかなりの水量があるが、途中で取水されてしまう)ので、あまり滝も大きく感じられないが、茂庭にはめずらしく大きな滝である。すぐに国道399号の橋に着き、道路にあがって地蔵沢の下降は終了。(記。)

下降開始(9:10)——終了(11:15)

小深谷沢

1982年8月29日

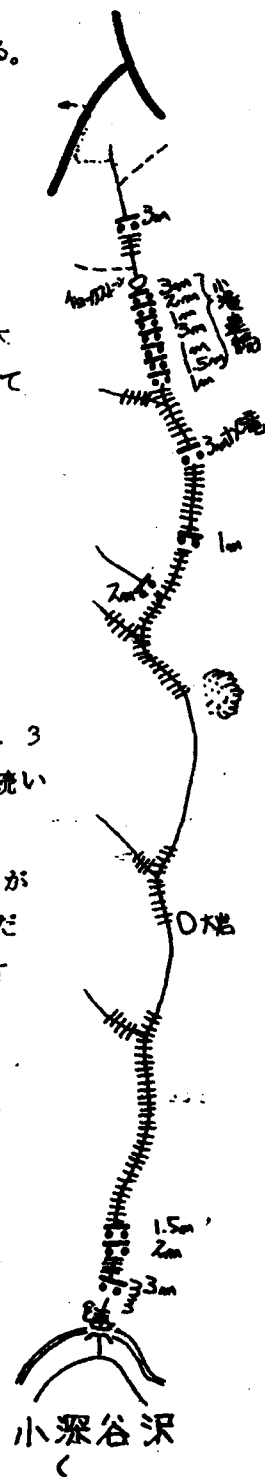
L:

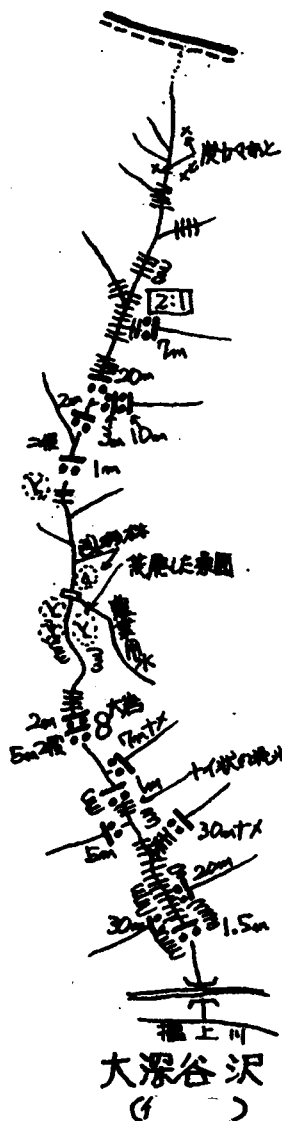
小深谷沢橋より入深。フェルトワラジを着ける。すぐに F1 3m トヨ状ナメ滝が現われる。滝の上もナメ。更に小滝が2つ続いて、出だしは上々である。

クロスズメバチの巣があった。この前的大雨で土砂くずれが起き、巣が露出している。そこをスズメバチにおそわれたのだろう。弱りきった2、3頭のスズメバチがうろつき、巣の断片が散乱している。クロスズメバチは残った巣の断片にかたまっているが、巣の大きさからいってその数は極端に少く、また当然いるはずの幼虫や蛹の姿はない。スズメバチによるさまざまの攻撃と隣奪のありさまが想像されようというものである。西さんが落ちていた巣の断片を拾いあげたら、たまたまそれについていた1匹のハチに刺されてしまった。

左岸に大岩がある所を過ぎると沢は全く平凡となった。左岸に大きなガレ場を見、行手をふさぐ倒木をのりこえて進むと二俣となる。ナメになっていて、左はほんの少しの水が流れているだけ。右の本流を進む。

3mのナメ滝を軽く越えて少し進むと、小滝が連続している所に来た。1~3mのものばかりなので次々と楽に越えてゆける。ここを突破





している途中で、沢にサルナシの実が落ちていたのに気づいた。樹をさがしてまわりを見回すと右岸の高い所に問題の樹があった。西さんが登ってとる。熟しているのもあって、うまかった。小滝群の最後に沢をうめるようにして大きなチョックストーンがある。これをのりこえて上に出る。

もう水も少なくなってきた。尾根に向かって登る。途中3ヶ所程炭焼き釜のあとがあり、尾根には廃道があった。

(記。 )

小深谷沢橋(7:00)——尾根(9:00)

1982年5月23日

大深谷沢

L

天気晴。大深谷沢出合に車を置いて遡行開始。歩きはじめてすぐ1.5m程の小滝がありナメとなる。出だしの奮闘気はなかなか上々である。沢の所々に岩にきざんだ足形や鉄棒が残っていて、昔この沢ぞいの往来がかなり盛んであったようである。

左岸に支沢をわけ、5m 2段の滝を直登する。奮闘気がよかったのはここらあたりまでで、この先は沢が急に明るくひらけてきた。左右をみると桑畑である。いや、桑畑のあとといった方がよいだろう。放棄されて何年もたち荒れ放題となっている。先ほどの道はここに通ずる道だったのかと合点する。それにしても、摺上川ぞいに広がる茂庭地区は農

耕地に恵まれなかったためか、かなりあちこちに点々と畑地をもっていたようである。もっとも近年はこれらのうち支沢の奥に設けられていたものは、その多くが放棄されているようだが。。。。

左岸に水路が走っている。芳振地区へでも農業用水を引いているのだろうか。手入れされた水路は、今も現に利用されていることを示している。

杉の美林と桑畑あとをぬけて更に進むと二俣となり、右へ入る。やがて20mの滝。この沢で目立った滝はこれ1つであった。下3分の2ほどは左岸を、あとは右岸に移って直登する。みたく目以上にホールドもあって、比較的楽に登れた。